

科目名		財務会計論 I (Financial Accounting I)								
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	前期 100分/週	45 時間			
担当教員		【常勤】 田川 晋也								
学習到達目標										
科目の到達目標レベル	企業が公表する財務諸表がどのような役割を果たしているのかについて学ぶ。講義では、会社を設立して営業を行っていくうえで、必要となる会計の知識、会計の処理について説明する。また、会計基準の国際的統合化の動きも考慮して授業を行う。必要に応じて事例を取り上げて、何が会計上問題なのかについて説明する。									
学習・教育目標	(C)①	JABEE基準1(2)		(d)-(f)						
関連科目、教科書および補助教材										
関連科目	簿記概論 I・II、原価計算論 I・II、経営財務論 I・II、会社法									
教科書	「財務会計入門」桜井久勝・須田一幸(有斐閣)									
補助教材等	プリント(演習問題)									
達成度評価 (%)										
評価方法		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合										
総合評価割合		40	40		20					100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎		◎					/
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		○	○		○					
汎用的技能【論理的思考力】		○	○		○					
態度・志向性(人間力)【 】										
総合的な学習経験と創造的思考力【 】										
学習上の留意点, 学習上の助言										
1・2年生の頃に学習した商業簿記について復習しておくこと。会社法の授業との関連性も高い。										

授業の明細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 会計の種類・役割 2 財務会計の基本原則	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・会計の種類、財務会計の法規制、役割を理解できる。 ・複式簿記の構造について理解できる。 ・損益法・財産法について理解できる。 ・B/SとP/Lの基本原則を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4	3 企業の設立と資金調達	・会社設立時の株式発行の処理について理解できる。 ・創立費と開業費について理解できる。 ・社債の発行処理、新株発行の処理について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
5			
6	4 仕入・生産活動	・棚卸資産の取得原価の決定方法を理解できる。 ・取替原価と純実現可能価額を理解できる。 ・賞与引当金、退職給付引当金について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 5 販売活動	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・貸し倒れの設定方法について理解できる。 ・売上原価を算定方法について理解できる。 ・工事進行基準、割賦基準について理解できる。 ・実現概念について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11			
12	6 設備投資と研究開発	・固定資産の取得方法を理解できる。 ・圧縮記帳について理解できる。 ・資産除去債務について理解できる。 ・減価償却の意義、方法について理解できる。 ・研究開発費の会計処理について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
13			
14			
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総学習時間数			45時間
講義			25時間
自学自習			20時間